

2007年10月26日

スタンダードチャータード銀行主催の国際リレーマラソン
「グレイテスト・レース・オン・アース」に日本チームが出場
～2007/08大会が2007年10月28日ナイロビでスタート～

スタンダードチャータード銀行（本店：ロンドン、CEO：ピーター・サンズ／東京支店：東京都千代田区、CEO：マーク・デヴァダソン）が主催する国際リレーマラソン「グレイテスト・レース・オン・アース（GROE）2007/08」に日本チームが出場します。GROEは、4人のチームで1人ずつ、ナイロビ、シンガポール、ムンバイ、香港の4カ国で開催されるマラソンを走り、総合タイムを競うリレーマラソンです。今大会には、過去最多となる33カ国から53チームが出場します。日本チームの出場は、2005/06年大会に続き2回目となり、今回のチームはインターネットを通じて公募され、マラソンの自己ベスト3時間以内の記録を持つ4名の市民ランナーが選出されました。

2007年10月28日（日）のナイロビマラソンでは近藤貴さん、2007年12月2日（日）のシンガポールマラソンでは澤津橋英昌さん、2008年1月20日（日）ムンバイマラソンでは西山幸宏さん、そして最終レースとなる2008年2月17日（日）の香港マラソンでは山下部隆さんが日本を代表して走ります。

GROE最初の舞台となるナイロビは、標高1600メートルに位置し、高地に慣れていない選手にとっては空気の薄さが最大の難関となります。多くの優れたランナーを生み出し、長距離走の本拠地とされるケニアだけに、人々の期待も大きく、毎年数千人にのぼる熱狂的な観衆が沿道で選手たちに声援をおくります。

ナイロビの標高の高さにひきつづき、シンガポールでは湿度の高さ、ムンバイでは暑さ、そして香港では厳しい上り坂が選手を苦しめます。これらの厳しいレースを最後まで戦い抜くためには、パートナーシップ、チームワーク、信頼、勇気、意志の強さ、そして決意が求められます。これらはすべてスタンダードチャータード銀行のコアバリューです。

スタンダードチャータード銀行は、GROE2007/08大会より、新たに「環境チャレンジ（Environment Challenge）」プログラムを展開します。「環境チャレンジ」では、みなさんにGROEのウェブサイト http://www.thegreatestraceonearth.com/your_enviro_pledge/eng/（英語*）に掲載されている環境についての「誓い（Pledge）」の中から、最大8つまでを選んで実行していただきます。そして、その誓いによって支援したいレース参加国を選んでいただきます。誓いをたててくれた人の数（人口一人当たり）が最も多い3カ国に対し、WWF（世界自然保護基金）の協力のもと、その国にとって有益な環境プロジェクトにスタンダードチャータード銀行から総額100万米ドルが寄付されます。誓いは2008年2月8日で締め切られ、最後のレースとなる香港マラソンが終了した翌日、2月18日に勝利国が発表されます。

スタンダードチャータード銀行東京支店 CEO であるマーク・デヴァダソンは、「33カ国、53チームで競う今回のGROEに、日本からチームを送り出すことができたことを、大変うれしく思っています。また、今大会から新たに展開される環境チャレンジは、ランナーではない一般の人たちにもレースに興味をもってもらい、環境問題への意識を高める機会を提供しています。一人でも多くの日本のみなさんに、この環境チャレンジに参加していただき、日本チームを応援するとともに、環境問題について意識していただきたいと願っています」と述べています。

*環境チャレンジの日本語ウェブサイトは、スタンダードチャータード銀行日本のウェブサイト <http://www.standardchartered.co.jp/japanese/groe2007.html> よりご覧いただけるよう、現在準備をすすめています。

日本チーム ランナープロフィール

ナイロビ 2007年10月28日

近藤 貴(こんどう たかし)

41歳

建設会社勤務

自己ベスト2時間40分51秒

5年前の夏に手術をし、その後、医者のお勧めでウォーキングを開始。徐々にジョギングに切り替え、4ヵ月後には初めてのマラソンに出場。もともと走ることに興味があり、高校時代に一度は陸上部に入部したものの、事情により退部せざるを得なかった。その無念を晴らすように今、青春を感じ、自己ベストを更新し続けている。練習はもっぱら深夜、懐中電灯を持ちながら遊歩道を走っている。

シンガポール 2007年12月2日

澤津橋 英昌(さわつばし ひでまさ)

33歳

大学職員

自己ベスト 2時間48分33秒

中学の頃からバレーボールを始め、障害者と共に楽しむシッティングバレーボールでは全国大会で3回優勝の経験をもつ。個人スポーツでも全国を目指したいという思いから走ることを始め、今では毎朝のランニングが日課となっている。富士登山競争や100kmマラソンなどにも参加し、早いランナーよりも決してリタイヤしないタフな市民ランナーを目指している。

ムンバイ 2008年1月20日

西山 幸宏(にしやま ゆきひろ)

22歳

学生

自己ベスト 2時間42分45秒

家が箱根駅伝のコースにあり、小さい頃からマラソンには慣れ親しんでいた。初めは応援する側であったが、1996年第72回箱根駅伝で負傷しながらも歩き、たすきをつないだ選手を見て感動、自分でも走るようになった。才能がないとあきらめ、途中競歩に転向した時もあったが、やはり走りたい気持ちが強く、現在は大学の第二体育会やサークルなどで活動中。

香港 2008年2月17日

山下部 隆(やまかべ たかし)

32歳

ソフトウェア設計・開発

自己ベスト 2時間32分58秒

小さい頃から走るのが好きで、大学から本格的に陸上競技を始める。800mを専門とし中距離選手としてスタートしたが、会社に入ってからトラックで練習する時間がとれなくなり、徐々にマラソンに転向。現在も通勤ランなど月に400~600kmを走っている。

【参考資料】

スタンダードチャータード銀行主催「グレイテスト・レース・オン・アース」

グレイテスト・レース・オン・アース(GROE)は、世界屈指のエキゾチックな4つの都市を走る世界で唯一のリレーマラソンです。2004年にスタンダードチャータード銀行の企画・支援で始まったこのレースも今大会で4回目を迎えますが、108万米ドルにのぼる賞金総額は今なお陸上競技イベントの中では最高金額となっています。

マラソンは伝統的な個人競技ですが、GROEにおいては創設以来、チームスポーツとして行われています。世界最速のマラソンランナーたちも4人1組のチームとして、ライバルたちよりも早い総合タイムを達成し、賞金を獲得するために、一致団結して1人1レースを走ります。

2007/08大会は、国を代表するチームで競う「ネーションズ・チャレンジ」部門のみで開催される初めての大会となりました。過去最多となる33カ国から53チームの参加が決定し、GROEがマラソンのワールドカップのようになりつつあることを物語っています。

出場者たちは、世界のマラソンの中でも最もチャレンジングな状況に直面することになります。ナイロビの標高の高さ、シンガポールの湿度、ムンバイの暑さ、そして香港の登り坂が彼らを待ち受けます。このような厳しいレースの中で、スタンダードチャータード銀行のコアバリューであるパートナーシップ、チームワーク、信頼、勇気、意志の強さ、そして決意が、勝者を決める重要なカギとなるでしょう。

ナイロビ	2007年10月28日(日)
シンガポール	2007年12月2日(日)
ムンバイ	2008年1月20日(日)
香港	2008年2月17日(日)

賞金(総額 108 万米ドル)	
ネーションズ・チャレンジ	男女総合優勝チームにそれぞれ 10 万米ドル。 アフリカ、東南アジア、北東アジア、アメリカ、ヨーロッパとオセアニア、南アジアと中東の 6 つの地域において各地域の 1 位に 4 万米ドル、2 位に 2 万米ドル、3 位に 1 万米ドル。
パフォーマンス・アワード	以前の GROE 出場時の記録に比べ飛躍的な進歩を見せたナショナルチームと、全力を注ぎ、努力と決意によってレースを戦いぬいたチームに特別賞として 4 万米ドル。

地球環境をより良くするためのマラソンレース - Race For a Living Planet-

スタンダードチャータード銀行は、GROE2007/08大会より、新たに「環境チャレンジ(Environment Challenge)」プログラムを展開します。「環境チャレンジ」では、みなさんに GROE のウェブサイト <http://www.thegreatestraceonearth.com> (英語) に掲載されている環境についての「誓い(Pledge)」の中から、最大 8 つまでを選んで実行していただきます。そして、その誓いによって支援したいレース参加国を選んでいただきます。誓いをたててくれた人の数(人口一人当たり)が最も多い 3 カ国に対し、WWF(世界自然保護基金)の協力のもと、その国にとって有益な環境プロジェクトにスタンダードチャータード銀行から総額 100 万米ドルが寄付されます。誓いの数が最も多かった国には 50 万米ドル、2 番目に多かった国には 35 万米ドル、3 番目の国には 15 万米ドルが授与されます。結果は GROE 最終レースとなる香港マラソンの翌日、2008年2月18日(月)に発表されます。

上位 3 カ国が決定した時点で、スタンダードチャータード銀行は環境チャレンジのパートナーである WWF と協力し、勝利国の中で資金を必要しているプロジェクトのリストを確認します。そして、勝利国内のプロジェクト、または、勝利国に有益となるプロジェクトがスタンダードチャータード銀行によって選出されます。

誓い

スタンダードチャータード銀行は「環境チャレンジ」プログラムを、同行のグローバル・サステナビリティ戦略及び環境へのアプローチの重要な要素としています。GROEに「環境チャレンジ」を加えることにより、同行は従業員、顧客、そして一般の人々に、**水、土地と森林、大気汚染と気候変動**に対して与える長期的な影響を削減するために、私たち一人ひとりが簡単にできることを考えてもらいたいと願っています。

水、土地と森林、大気汚染と気候変動は、もっと調べてみよう(教育)というテーマとともに、キャンペーンの4つの重要なテーマとなっています。テーマごとに2つの誓いが用意されており、参加者にその中から選択し実行してもらいます。

- | | |
|----------------------|--|
| 水 | <ul style="list-style-type: none">▪ 歯を磨く際に水を流しっぱなしにしない▪ 毎日のシャワーにかかる時間を1分間短くする |
| 土地と森林 | <ul style="list-style-type: none">▪ レジ袋を再利用するか少なくとも週3回は利用を断る▪ 印刷の際は、1枚に2ページ分または両面印刷する |
| 大気汚染と気候変動 | <ul style="list-style-type: none">▪ エアコンの設定温度を冷房は1度上げ、暖房は1度下げる▪ 部屋を出るときは電気を消す |
| もっと調べてみよう(教育) | <ul style="list-style-type: none">▪ オンラインのカーボン計算機を利用し二酸化炭素の排出量測定する▪ My Environment のページで自分にできることを学ぶ |

スタンダードチャータード カーボン計算機

エディンバラ・センター・フォー・カーボン・マネージメントとウェブサイトデザイン会社ファクトノミーにより開発されたカーボン計算機は、利用者の家庭や移動先でのCO₂排出量を測定することができます。

このユニークなカーボン計算機は、スタンダードチャータード銀行のネットワークがある50カ国以上の国における家庭でのCO₂排出量測定が可能です。計算機はこの種の機器の中では最も精巧であり、利用者の国で用いられている単位で個人のCO₂排出量を確認する機会を提供します。

WWF(世界資源保護基金)

- WWFは、100を超える国々で活動する、1961年創立の世界最大の自然保護NGO(非政府組織)です。WWFは、自然と共生する人間生活の確立することで自然保護を行うことを目指しています。
- WWFは、個人・企業・政府レベルでの協力により、以下の取り組みを行っています。
 - 地球全体の生物多様性を守り、絶滅危機種の保護を行う
 - 再生可能な天然資源を持続的なかたちで開発
 - 公害・過剰消費の軽減を促進

スタンダードチャータード銀行- アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社であるスタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100 構成銘柄の上位25 社にランキングされています。

スタンダードチャータード銀行は、創立以来150 年以上の歴史を誇り、アジア太平洋地域・アフリカ・南アジア・中近東・欧州・英国・米州の世界57 カ国で、店舗数1,400 強(当行子会社・提携会社・ジョイントベンチャーを含む)の広範な地域拠点を網羅するグローバル・ネットワークを駆使し、世界で急成長を遂げる数多くの新興成長市場において、事業展開を行っています。

世界有数の国際銀行として、全世界で100 以上の国籍のよって構成される60,000 人余名の行員を擁しています。この多様性は、私どもが持つ企業価値の真髄をなすものであり、また、世界がひとつの市場として統合されつつある現在、当行の企業成長を支えています。

スタンダードチャータード銀行は、その戦略的買収・提携、安定した財政基盤、多岐多様にわたる事業分野・金融商品・地域性、そして当行行員に支えられた堅調なオーガニック成長(買収等を含まない事業自体からの収益成長)により、アジア・アフリカ・中近東地域の急成長を続ける新興市場において、当行の優位性を確保しております。また、その総収益9 割強がアジア・アフリカ・中近東地域から計上されています。

スタンダードチャータード銀行は、世界各国で、個人および法人向けサービスに特化したコンシューマーバンキング部門・ホールセールバンキング部門による両面での業務展開を行っていることから、顧客の皆様には、グローバルな視点に立ち、かつ各地域で培った高い知識・ノウハウを駆使して、広範で革新的な金融商品・サービス、また、数々の賞に輝く、実力に裏づけされたファイナンシャル・ソリューションを提供しております。

また、当行グループで一律に適用される企業統治(コーポレートガバナンス)および企業責任(コーポレイトリスポンシビリティ)に基づき、地域社会との一体性・環境保護・望ましいコーポレートガバナンスを図り、長期的なスタンスに立ち、確実に、サステナビリティ(持続的成長)のある事業構築を行っています。

2006 年The Banker(ザ・バンカー)賞において、スタンダードチャータード銀行は「最優秀世界銀行賞(グローバル・バンク・オブ・ザ・イヤー)」をはじめ、アジア太平洋とアフリカの主要2 地域において「地域最優秀銀行賞」、6 カ国での「最優秀銀行賞」、および「最優秀CSR(企業の社会的責任)賞」を受賞しております。

日本・アジア地域におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての駐在員事務所を開設した1880 年にさかのぼり、今年で127 年目を迎えました。現在では、東京支店(千代田区・山王パークタワー)および丸の内支店において、約250名の従業員を擁しています。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール(大口金融)、カスタディ、トレジャリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供、そして個人のお客様にはプライオリティバンキングサービスを提供しながら、さらなる成長を続けています。

世界におけるスタンダードチャータードのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語): http://www.standardchartered.co.jp/index_english.html

日本におけるスタンダードチャータード銀行プライオリティバンキングのウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp/cb/pb/

スタンダードチャータード銀行 東京支店 コーポレート・アフェアーズ部

・森田 早智

Tel: 03-5511-1245

Sachi.Morita@jp.standardchartered.com

・部長 クリストファー・ドミター

Tel: 03-5511-1361

Christopher.Domitter@jp.standardchartered.com